

研修名 保護者支援 子育て支援 保育士研修E

平成29年11月6日(月) 10:00~16:00

講演 「保護者支援の意義」「保護者に対する相談・援助」

講師 株式会社対話教育研究所 小山 氏

1 講演要旨

1) 保育のあり方

①保育の歴史・変化

- ・ 貧困救済の一環として開設された保育所
- ・ 社会の形の変化（高度経済成長期や女性の社会進出など）や、家族の形の変化（核家族化。一人親家庭増加）や地域の間関係の希薄化により保育所のあり方も変化

→子どもに関する理解不足・親の孤立・仕事と育児の両立という課題

②母親を取り巻く変化

- ・ 昔…母を支える地域社会があった

→今…母親だけが子育てを頑張っている

⇒ **サル**の子ども 熊やライオンと違いコミュニティの中で生きている。
母親だけが頑張るのではなく、群れの中で育てる。

人間も一緒

保育士は子育てを支援する必要がある。

保育所における保護者への支援は、保育士等の業務であり、その専門性を生かした子育て支援の役割は、特に重要なものである。

2) 「Belief」 信じ込み・思い込み

①人間はBeliefに支配されている

- ・ 人は目で見える世界に住んでいるのではない。目で見える世界をどう受け取っているか、その受け取り方の世界に住んでいる。
- ・ どう受け取ったかが、そのものの価値を決め、そのものとの関係性を決める。

→人間は出来事ではなく信じ込みで人生が変わる

②信じ込みに良し悪しはない。どれも10にも1にも作用する。

→ Beliefに振り回されずに行動するとよい

3) ティーチングとコーチング

①ティーチング

親が聞くことに対し、保育士が教える・アドバイスをする

②コーチング

親が話すことを保育者は傾聴し、質問・承認する。親は安心してより話をすることで気づきがある。

4) コーチング

①傾聴する

〈ルール〉

- ・相手の話の途中で話し出さない。黙って聴くことが大切
- ・否定せずにすべて受け取る
- ・存在を認めてあげる
- ・全身を耳にして受け取る

- ・聴く⇔話す→放す「すっきりした」「楽になった」「自分はここにいていいんだ」「受け入れられているんだ」
→離す「自分の心の中にあることが明確になる」
「自分の向かう方向や課題が明確になる」

人間の怒りは5分」しっかりと聴く

〈傾聴の三要素〉

- ・集中する（一緒にいる）
- ・判断を脇に置く
- ・沈黙を大切にする（深い悩みを持っている場合、沈黙の後に話し出すこともある）

- ・傾聴（共振） 「そうなんです」
「は〜」「ふ〜ん」「へ〜」「ほ〜」

*相手に合わせた表情やスピードで話す

- ・判断・評価 「そうですね」
- ・話の内容ではなく、その人に対して興味を持つこと

②質問する＝判断を脇に置き、興味を持って関わること

詰問（嫌な質問）→身を守るために武装してしまう

〈質問4種類〉

- ・過去・プラス領域…「一番たのしかったのはいつ?」「どんな言葉が言えたらよかった?」
- ・未来・プラス領域…「どうになりたい?」「なにがあったらよくなれる?」
- ・過去・マイナス領域…「どうしたの?なんで?」「どんな言葉を言ったの?」「前に頑張るって言ったよね」
- ・未来・マイナス領域…「お兄ちゃんになれなくていいの?」「このままひどくなったらどうするの?」

⇒傾聴した上で「なぜ?」ではなくて「なに?」の質問

プラス領域の質問をする

③承認する＝あるがまま存在を認めること

否定から入るのではない（おだて、よいしょではない）

	評 価	
ほめる	<p>“YOU” のほめ 主語が「あなたは」 「認める」という判断・評価・解釈</p> <p>よくがんばったね りっぱだね たくさんできたね さすがは〇〇！！</p>	<p>“I” のほめ 主語が「あなたは」 自分の感情をそのまま言葉にする</p> <p>うれしいな 感激したよ またいっしょに遊びたいよ 大好きだよ</p>
ほめない	<p>認めない 「認めない」という判断・評価・解釈</p> <p>まぐれじゃないの ふ～ん それがどうしたの？ はあやっとできたの？おそい 〇〇ならもっとできなきゃ</p>	<p>フィードバック 事実をとらえてそのまま言葉にする</p> <p>お片付けできたね 約束まもれたね けんかしなかったね ニコニコ笑ってるね</p>

母親は「承認欠乏症」

→・母が保育士に言われることで母は子どもを褒める

・“I” のほめが一番人が喜ぶうれしい言葉

2 感想

「異質な人とのふれあいほど学びが大きい」先生の言葉より、研修内では自分とはタイプの違うような人に声をかけ、話をした。

自分が今、子どもや保護者を支援しようという思いで使っている言葉は、素直に相手の心には届いていないこと、また相手の話をしたい、聞いてほしいという思いを削いでしまっていることに気がついた。

研修の中で、繰り返しコーチングを行い、話を傾聴・質問・承認をし、自分の中ですぐに現場に生かしていけそうだと感じたが、実際はなかなか難しかった。話を聞いていても、途中で判断が頭の中で巡り、相手の話をしっかりと聴けていないことに気づいた。相手を否定せず、存在をそのまま認める難しさ。また、相手を承認し興味を持って質問すること、Beliefに振り回されずに人と接することの難しさを感じた。

様々な困り感を抱えている子ども達を日々保育しているが、自身がコーチングを取り入れることで、保護者と子ども達がしいては私自身の未来が幸せになれるよう努力していきたい。

（記録 久御山町立宮ノ後保育所 阪本裕子）